

コスタリカ経済定期報告 (2018 年 5 月)

2018 年 6 月

在コスタリカ日本大使館 経済班

※出典：コスタリカ中央銀行、財務省、貿易省(COMEX) 及び貿易振興機構(PROCOMER) (1 -3 月分数値)。主な出来事については当地新聞記事¹⁾による。

1 主要経済指標

	2017 年	2018 年		
		3 月	4 月	5 月
累積輸出総額 FOB(100 万ドル)	10,607.4	2,734.4	3,656.7	n.a.
累積輸入総額 CIF(100 万ドル)	15,927.2	3,874.1	5,312.6	n.a.
貿易収支(100 万ドル)	▲5,319.8	▲1,139.7	▲1,655.9	n.a.
財政収支対 GDP 比(%)	▲6.19	▲1.50	n.a.	n.a.
消費者物価指数(CPI:2015 年 6 月を 100 とする)	102.5	103.1	103.0	n.a.
為替(通貨はコロン・1 米ドルあたり中値・月末値)	570.20	566.39	566.17	568.67
政策金利(%)	4.75 (年末値)	5.00	5.00	5.00
基本預金金利(%)	5.95 (年末値)	6.00	6.15	6.00
外貨準備高(100 万ドル)	7,149.80	8,473.9	8,151.7	8,343.7

2 アルバラード新政権の動向

5 月 8 日に就任したアルバラード大統領の夫人であるクラウディア・ドブレス氏は、国営テレビ局とのインタビューにおいて、交通インフラや地方振興は複数の省庁や政府機関にまたがる事業なので、大統領夫人室が調整役となってその遂行に当たることを明らかにした。交通インフラについては、高速通勤電車 (TRP) とバス専用車線の開設(Sectorizacion) が優先課題であり、TPR については独立 200 周年に当たる 2021 年には、第 1 段階の事業を民間企業へのコンセッションにより実施したいとの意向を示した。

3 財政

新政権の喫緊の課題となっている財政赤字の削減に関し、5 月 30 日及び 31 日、アギラール財務大臣は、財政強化法案の可決の前提条件になると見られている政府の歳出抑制策について国会に対して説明を行った。その中で、政府の権限内で取られる 11 項目の措置について伝えた。これらの措置には、公務員の基本給や諸手当の引き上げや公務員の新規

¹⁾ ラ・ナシオン紙, ラ・レプブリカ紙, エル・フィナンシエロ紙

雇用の抑制、残業費や出張費の削減等が含まれており、全ての措置がとられれば、対 GDP 比 0.14% の節約につながるとされている。同大臣は、これらの歳出抑制策を説明しつつ、政府が提出している財政強化法案の早期可決の必要性を訴えた。

4 貿易

- (1) 新任のレナト・アルバラード農牧大臣は、当国が 2015 年 5 月から輸入を禁止しているメキシコ産のアボガドについて引き続き禁止を継続するとともに、国内農業産品の保護を最優先する立場を明らかにした。
- (2) 本年 1~4 月期の自動車の輸入量は、24,412 台であり、昨年同期比で 13.8% 減少した。その理由としては、財政赤字の悪化により金利が上昇したこと等があげられる。このため、同期における自動車関連の税収は 12% 減少し、90,000 百万コロンとなった。自動車関連の税収は政府の歳入の約 2 割を占めているので、その減少が国庫に与える影響は大きい。
- (3) 輸出振興機関(PROCOMER)によると、2017 年のコスタリカの対中輸出は、昨年比で 141% 増加し、111 百万米ドルに達した。輸出が特に増加した品目は、砂糖、牛肉、木材、医療機器。砂糖については、2014 年から 2016 年にかけてコスタリカは対外的に輸出していなかったため、2017 年の対中輸出額が急増した。牛肉については、昨年比 84% の増加を記録した。2018 年第 1 四半期の対中輸出額は、昨年同期比 206% である 78.1 百万ドルに達し、今後も対中輸出増が期待されている。

5 その他の経済ニュース（出典：当地報道など）

●テキサス工科大学サンホセ分校の開設

5 月 10 日、米国のテキサス工科大学が、10 百万米ドル規模の初期投資を行い、エスカス市にサンホセ分校を開設した。将来的に、1,300 人の学生を受け入れる予定。地元で需要が高い電気工学、情報処理等の 5 分野の学士課程を本年 8 月から開講。学費は月額 1,500 米ドル。

●ボラリス航空がサンホセ・ワシントン DC 路線に就航

5 月 16 日、格安航空会社のボラリスが、サンサルバドル経由でのサンホセ・ワシントン DC 間航空路線に就航した。サンホセ発ワシントン DC 行きのフライトは週 2 便（月、木）、ワシントン DC 発サンホセ行きも週 2 便（火、木）運航する。

●医療ツアーによる収益

中央銀行が発表した暫定的なデータによると、治療を目的とした当国への観光客がもたらした収益は、昨年 437 百万ドルに達した。2013 年に比べると 33% の増加。コスタリカ保健会議所(Promed)の調査では、医療ツアーでの来訪者の 83% は、米国人である。

来訪者の45%は、歯科治療（美容、整形を含む）を目的としている。コスタリカでの治療が好まれる理由としては、当国の医師のレベルの高さ、安全、英語が通じることがあげられる。

●スワロフスキーのサービス・センターの開設

5月30日、クリスタル・ガラス製造会社であるスワロフスキーがサンホセ市にグローバル・サービス・センターを開設した。当初は30名を雇用するが、将来は職員増も視野に入れている。同センターは、同社が米州で行っている事業に関連する財務・管理サービスを一括して担当する。

(了)